

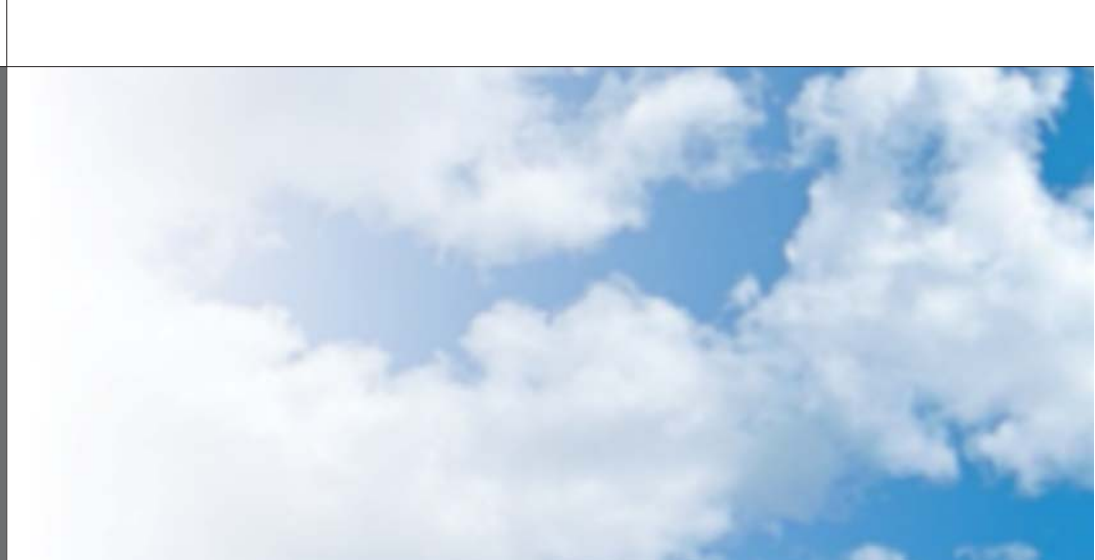
# Takara

 宝ホールディングス株式会社

アニュアルレポート 2006

Contributing to the creation of healthy  
lifestyles and a vital society in harmony  
with nature through fermentation  
technologies and biotechnologies

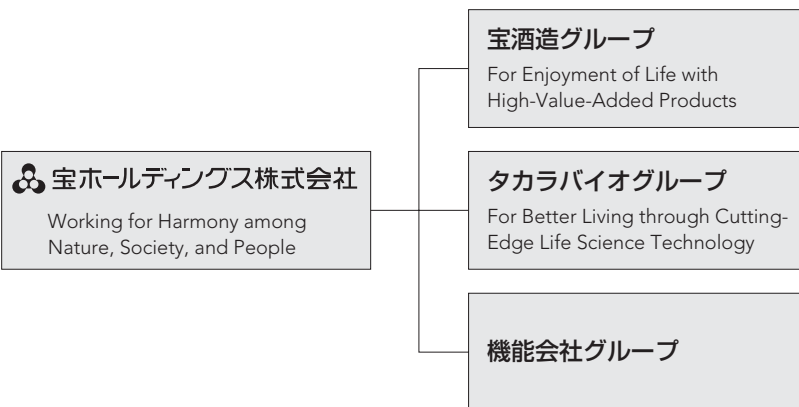
1	特集 <ul style="list-style-type: none"> <li>宝酒造の本格焼酎 全量芋焼酎 「一刻者」</li> <li>タカラバイオの 遺伝子医療</li> </ul>
6	株主、投資家の皆様へ
10	コーポレート・ガバナンス 環境活動
12	事業概要 宝酒造グループ
14	事業概要 タカラバイオグループ
16	6年間の主要連結財務データ ファクトシート
18	主要子会社データ 役員 会社概要
21	宝ホールディングスの歴史



目次

企業理念

自然との調和を大切に、  
発酵やバイオの技術を通じて  
人間の健康的な暮らしと  
生き生きとした  
社会づくりに貢献します。



将来見通しに関する注意事項

この報告書に記載されている、当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、様々な要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

わたしたちTaKaRaグループは、日本伝統の酒造りの発酵技術と最先端のバイオテクノロジー技術のイノベーションを通じて、食生活や生活文化、ライフサイエンスにおける新たな価値を創造し続けることによって、人々の豊かで健康的な暮らしに貢献したいと願っています。

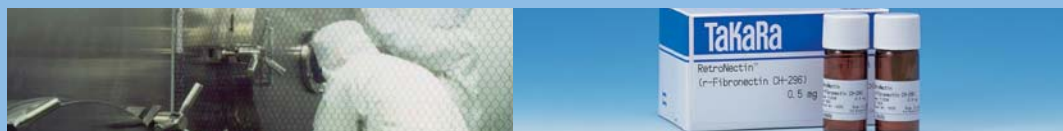
わたしたちTaKaRaグループは現在、2001年から2010年までの10年間の長期経営構想「TaKaRa Evolution-100 (TE-100)」に基づき、事業活動を進めています。

わたしたちが目指すTE-100のビジョンとは、業績の進化、事業の進化、経営の進化、風土・人財の進化、社会・環境行動の進化という5つの進化を遂げていくことによって、企業の経済的価値と文化的価値の双方を向上させ、真の企業価値(Value)を高めるというものです。

この最終目標の実現に向けて、酒類・食品事業を展開する宝酒造グループと、バイオ事業を展開するタカラバイオグループは、それぞれ中期経営計画を策定し、事業活動を展開しています。続くページでは、2つのコアビジネスが現在、最も注力しているトピックスをご紹介します。



宝酒造の本格焼酎 全量芋焼酎「一刻者(いっこもん)」



タカラバイオの遺伝子医療

# 宝酒造の本格焼酎 全量芋焼酎

## 「一刻者」 いっこもん



少子高齢化に伴い、国内のアルコール飲料市場は、品質や技術にこだわった商品のニーズが高まると考えられます。このような市場ニーズにいかに対応できるかが、成長の鍵となります。宝酒造は環境変化をビジネスチャンスととらえ、差別化された商品開発により、ヒット商品の提供を目指しています。ここでは、「本物志向」への対応として、今最も力を入れている“全量芋焼酎「一刻者」”についてご紹介します。

### “いも全量”へのこだわり

宝酒造が芋焼酎の開発に着手したのは1997年。これからのトレンドを見つめて、つくり手の愛情や手造り感あふれる味を目指していました。

そこで当時の技術陣が検討したのは、麴原料に芋を使用した“全量”芋原料の焼酎です。一般的な芋焼酎は米麴が使われており、芋麴の製造は、非常に難しい技術とされていました。芋は蒸すと柔らかくなり過ぎ、水分が多いので麴菌が生育しにくいのです。他社でも芋麴を使用した芋原料100%焼酎は数銘柄ありましたが、従来芋を使った麴は、使い勝手が悪い上に、麴力価（特に、でんぷんの分解力）が米麴に比べて低く、発酵の進みが悪くなり、香味が単調になる、酸臭がつく等といった傾向がありました。

これをブレイクスルーさせたのは、様々な酒類を扱ってきたことによって蓄えられていた宝酒造の技術力です。技術陣は、試行錯誤を重ね、宝酒造独自の製法で焼酎造りに最適な芋麴を完成させました。



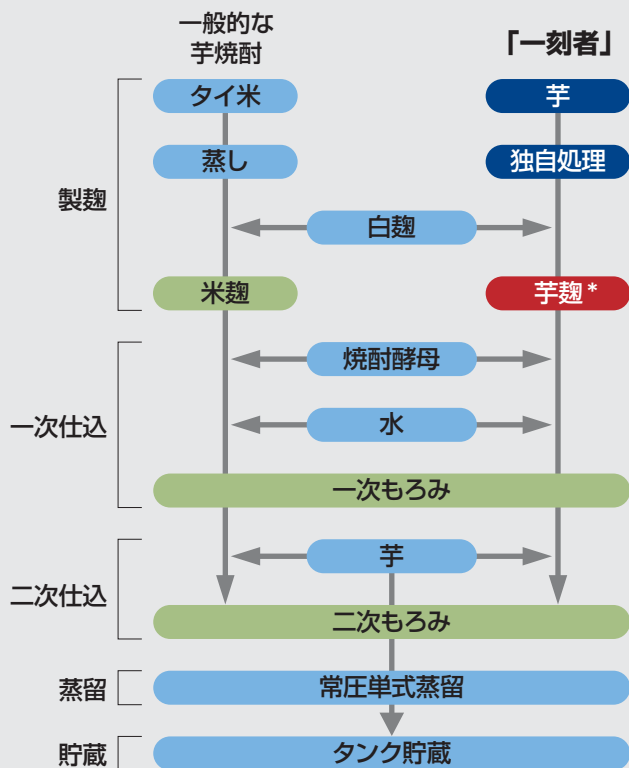
全量芋焼酎「一刻者」  
いっこもん

いっこもん  
「一刻者」の製造方法

ポイント：芋原料 100%

宝酒造独自の技術による芋麹\*

長年の研究による宝酒造独自の技術により芋焼酎造りに適した芋麹を実現。



芋焼酎の原料となる黄金千貫

## “いも全量”の香りと味わい

苦心の末に完成した“全量”芋焼酎は、想像とは違い、大変上品で香りの良いお酒になりました。それは、米麹に由来する脂肪酸を特徴とする香りがなく、芋が本来持つ風味だけが残ったため、雑味のない上品な仕上がりになったからです。さらに、麹の品質が良いので、醪（もろみ）の発酵もよく、適度にまろやかな味わいが出来上がりました。

## 花開いたパートナーシップ

芋焼酎の商品設計が進められていた頃、地域性豊かな本格焼酎造りを目指していた宝酒造は、九州の地元の蔵と技術的に提携し、製造を行う方針を固めていました。そこで、熊本、鹿児島、宮崎、沖縄等の数多くの蔵を訪問し、2000年、焼酎ファンの中で極めて評価の高い、鹿児島県薩摩郡の小牧醸造（持分法適用会社）との提携が決まりました。そして2001年、宝酒造の持つ麹造り・焼酎造りのノウハウと、小牧醸造の持つ芋焼酎造りのノウハウが旨くミックスされた、全量芋焼酎が完成したのです。商品名は「<sup>いっこもん</sup>一刻者」。鹿児島の方で「頑固者」のことですが、造りに頑固にこだわった商品が出来上がりました。

## 戦略商品として全社を挙げて販売を強化

「<sup>いっこもん</sup>一刻者」は、発売直後に訪れた芋焼酎ブームも追い風となり、生産が追いつかないほどの人気を博しました。2006年3月期には対前年比1.5倍近い伸びを見せ、確実にお客様に支持が広がっているという強い手ごたえを感じています。

そして2006年4月、「<sup>いっこもん</sup>一刻者」を国内酒類事業の収益力強化のための戦略商品として位置づけ、全社プロジェクトを立ち上げました。業務用新商品の発売や、プロモーション活動の強化、新規料飲店の積極的な開拓等、様々な施策を通し、品質面の優位性をきっちりと消費者に伝えていくことにより、ブランド価値を高めていきます。

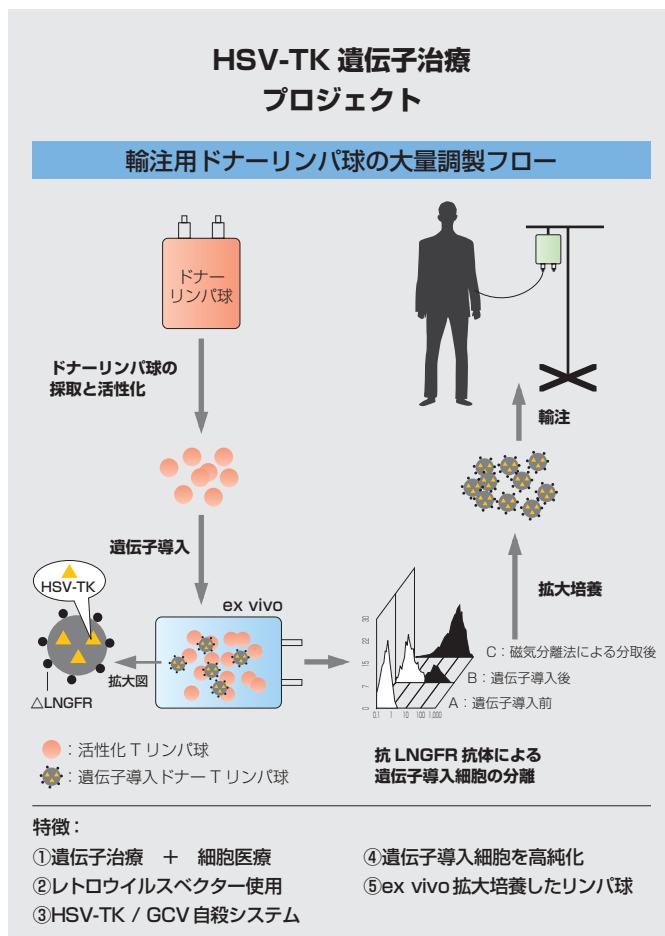
# タカラバイオの 遺伝子医療

タカラバイオが展開しているバイオ事業は、遺伝子工学をコアテクノロジーとして、遺伝子工学研究・食食品バイオ・遺伝子医療の3つを柱としています。特に、がんやエイズを対象とする遺伝子医療（遺伝子治療、細胞医療）は、将来大きく収益をあげる可能性を秘めた事業です。ここでは、タカラバイオが推進しているがんの遺伝子治療の臨床開発プロジェクトをご紹介します。

## 白血病（HSV-TK遺伝子治療）： 国立がんセンター（日本）

レトロネクチン法のライセンスアウト先であるイタリアのモルメド社が、欧州で臨床試験を行っている白血病を対象としたHSV-TK遺伝子治療について、その治療技術をほぼアジア全域で、タカラバイオが独占的に使用する権利を獲得しています。

タカラバイオは、国立がんセンターと共同で、日本における白血病を対象としたHSV-TK遺伝子治療の臨床試験を推進するため、国立がんセンターにGMPに準拠した細胞調製室を設置しました。現在、当該臨床試験を開始するため、確認申請の承認取得に向けて手続きを進めています。

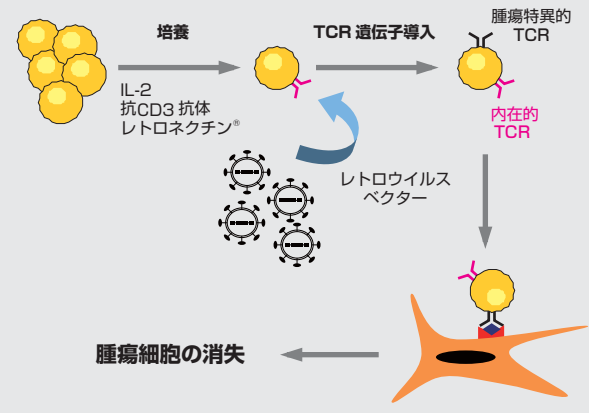


### <レトロネクチン法—遺伝子医療のキーテクノロジー—>

レトロネクチン法は米国インディアナ大学と共同開発したタカラバイオ独自の技術で、遺伝子治療の中核となるものです。レトロネクチン法は、体外遺伝子治療の際に使われ、これまで難しいとされてきた造血幹細胞等の血球系細胞への、高効率遺伝子導入を可能にします。タカラバイオはレトロネクチン法の全世界における独占実施権を保有し、世界中の様々な公的医療機関や企業にライセンスアウトし、臨床試験等で利用されています。

## TCR 遺伝子治療 プロジェクト

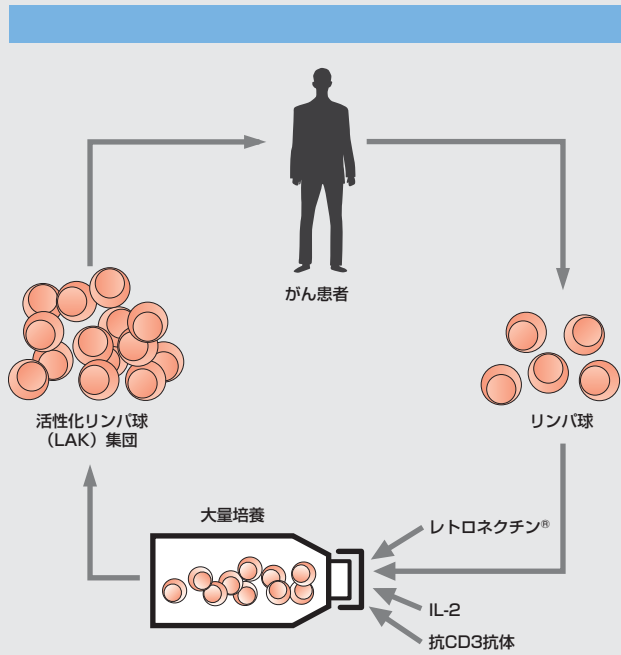
### TCR 遺伝子の導入フロー



## 食道がん (TCR遺伝子治療): 三重大学医学部 (日本)

食道がんを対象としたT細胞受容体 (TCR) 遺伝子治療の臨床開発を、三重大学医学部と共同で推進しています。この治療法は、がん抗原を認識できるTCR遺伝子を導入したがん細胞攻撃用のリンパ球を患者に戻すというものです。TCR遺伝子治療は、米国国立がん研究所でも悪性黒色腫を対象に、タカラバイオのレトロネクチン法を用いて臨床研究が進められている有望な治療法であり、細胞医療と遺伝子治療が複合した治療法といえます。タカラバイオは、TCR遺伝子治療の臨床研究を開始すべく、三重大学と共同で研究開発を推進しています。

## レトロネクチン®を用いる 活性化リンパ球移入療法



## 腎がん (がん免疫療法): 中国医学科学院 がん病院 (中国)

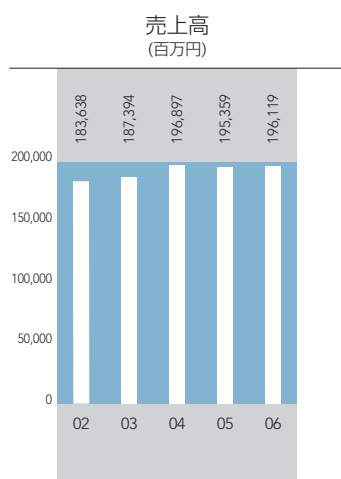
タカラバイオは、レトロネクチン®を用いてリンパ球を高効率に培養する技術を開発し、中国医学科学院がん病院と共同でレトロネクチン®を用いたがん免疫療法の臨床開発を進めてきました。2005年12月に、子会社の宝日生物技術 (北京) 有限公司とがん病院は、腎がんを対象とするレトロネクチン®を用いたがん免疫療法の臨床試験を北京薬品監督局に申請しました。今後、同監督局および国家食品薬品监督管理局の審査を経て、臨床試験の許可を取得したいと考えています。



中国医学科学院 がん病院



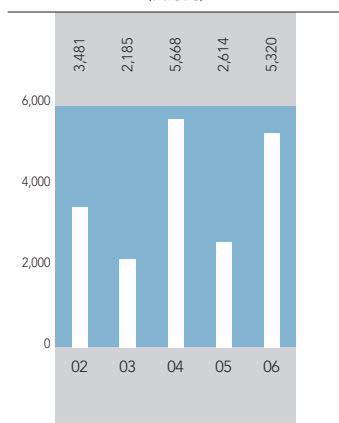
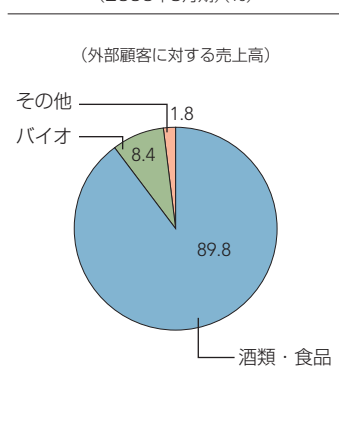
## 苦戦のなかで収穫も大きかった2006年3月期



2006年3月期は第6次中期経営計画の初年度であるため、その達成に向けた布石を打つとともに、短期的な収益の確保にも力を注ぐという点で、舵取りの難しい1年でした。

業績は連結ベースで売上高1,961億19百万円（前期比0.4%増）、営業利益59億24百万円（同20.0%減）、経常利益59億31百万円（同13.3%減）、当期純利益53億20百万円（同103.5%増）となりました。酒類・食品事業においては、ソフトアルコール飲料と飲料が大幅に減収となり、また“宝焼酎「純」”等を擁する甲類焼酎が、市場全体の縮小の影響を受けて減収となりました。バイオ事業においては、クロンテック社買収等により大幅な増収となりましたが、それに伴う一時的な費用の発生等により、赤字幅が拡大しました。以上の結果、グループ全体では微増収・営業減益となりました。当期純利益が大幅増益となったのは、タカラバイオの資金調達に伴う持分変動利益が発生したことや、宝酒造の伏見工場跡地の売却益等を計上したことが要因です。

一方で明るい材料も少なくありません。本格焼酎が好調に推移しています。また、清酒も市場全体がマイナス成長のなかで、当社は増収を確保しています。いずれも柱となる商品が牽引役となりました。本格焼酎では、“全量芋焼酎「一刻者」”が前期比4割を超える増収となり、本格焼酎売上高の約4分の1を占

当期純利益  
(百万円)セグメント別売上高構成比  
(2006年3月期)(%)

めるに至りました。「一刻者」は高品質ブランドとして消費者の認知度も高まっており、新たな収益源になりつつあります。清酒では、気軽にお買い求めいただける紙パック商品の“松竹梅「天」”が、スーパーマーケットやコンビニエンスストアを中心に、販売数量を伸ばしています。2003年9月の規制緩和以来拡大を続ける販路に対応した“松竹梅「天」”は、清酒市場における当社のシェア拡大に貢献しました。またバイオ事業においては、研究用試薬のラインアップの拡充、海外販路の獲得、そして研究開発力強化のために、米国のクロンテック社を買収いたしました。これによりバイオ事業の収益力を強化し、事業戦略を加速させます。

## 課題には粘り強く対処するのがTaKaRa流

2006年3月期は“タカラcanチューハイ”を中心とするソフトアルコール飲料の売上高が、市場全体で出荷数量が伸びるなか、前期比マイナスとなりました。「甘さ控えめ」を求める消費者に対して、“タカラcanチューハイ「本格辛口」”の拡販に力を入れましたが、苦戦しました。そこで2006年3月に、チューハイの原点に立ち返った、同じドライタイプの“TAKARA「焼酎ハイボール」”を投入しました。チューハイ市場の先駆者として、辛口の商品に粘り強く取り組んでいく方針です。

調味料事業においては、中食市場をターゲットとしたマーケティングが奏効しつつあります。1世帯当たりの人数が一層減少している昨今、調味料に対する需要は家庭から惣菜メーカーに着実にシフトしています。当社もこれに対応すべく、2005年に惣菜メーカーに積極的に営業を仕掛ける組織を立ち上げ、2006年4月にはこれを調味料加工業務用事業本部に昇格させました。また、加工業務用ブランドとして「京寶」を立ち上げ、品揃えの充実に取り組んでいます。なかでも「てり上手」はてり焼きの“てり”が長続きするとして、高い評価を受けています。

飲料事業の成績は厳しい状況でした。これは通常の飲料事業から、機能性を付加した商品構成に変化させ、機能性食品事業への脱皮を図っているためです。



2007年3月期にはさらにその速度をあげ、真に体に良い食品を消費者の皆様  
に提供するような価値ある事業に変容していきます。

事業に粘り強く取り組むことは、TaKaRaグループの信条といえます。ソフトアルコール飲料や飲料事業における課題にも、拙速な対策をとるのではなく、信念に基づいてじっくり取り組んでいきます。先駆的に取り組んできたバイオ事業も、同様のことがいえるでしょう。1979年に立ち上げたバイオ事業は、国内遺伝子工学研究の支援産業のトップ企業として確固たる基盤を築いています。また現在は遺伝子治療におけるレトロネクチン法の確立や、RNA干渉酵素の有効性確認といった実績を積み上げており、遺伝子治療の商業化を目指した取り組みを行っています。

## 中期経営計画の達成を目指す

第6次中期経営計画は2008年3月期を最終年度としており、その実現に向けて引き続き全力を注ぐ方針です。まず宝酒造グループでは、①国内酒類事業の収益力の強化、②国内非酒類事業と海外事業への注力、③事業活動を支える不断のコスト削減、以上3点を具体的施策として掲げています。①については、2006年3月期に大きく伸びた「一刻者<sup>いっくもん</sup>」をさらに拡大させます。同商品は営業サイドからもっと積極的に売ろうという声があがり、売上高が伸びたという経緯があります。また最近では、営業マンが回っていない店舗にまで、「一刻者」が並ぶという現象も出てきました。1977年発売の“宝焼酎「純」”、1984年発売の“タカラcanチューハイ”といったロングセラー商品に似た手応えを感じており、将来は100億円規模の商品に育てていきたいと考えています。

②は前述の調味料事業と飲料事業の方向性に加え、海外事業は中長期の視点で取り組むことを目指します。人口増加と所得上昇が進む中国・アジア諸国、日本食への関心が高い欧米と、海外市場には大きく期待する面があります。現状の市場規模は小さくても、早い段階で手掛け粘り強く取り組むことが、将来の収益につながることでしょう。

③は粗留アルコールや重油等のコストアップ要因が大きくなっていますが、



引き続き様々な施策を積み重ねコストダウンを継続するとともに、固定費の削減も継続していきます。

タカラバイオグループにおいては、開発段階にある遺伝子医療事業への先行投資を続け、成長基盤を確立するとともに、遺伝子工学研究分野を中心に安定的な収益基盤を確立することで、結果収支均衡を目指しています。2007年3月期は、クロンテック社買収のシナジー効果を具現化するよう活動を進め、収益力を強化します。そして、遺伝子医療分野において、体外遺伝子治療のスタンダードな技術になりつつあるレトロネクチン法のライセンスアウトをさらに積極的に進めるとともに、当社が日本で行っている2つの遺伝子治療の臨床開発を引き続き進めてまいります。

## 堅実さと夢を兼ね備えたTaKaRaグループ

宝ホールディングスは、酒類・食品事業の宝酒造グループと、バイオ事業のタカラバイオグループで構成されています。前者は消費者の日々の生活に密着した堅実な事業。後者は最先端技術を駆使するがゆえにリスクはあるものの、遺伝子治療という社会的意義のある事業に取り組み、将来の収益も大きいと考えられるものです。酒類・食品事業で毎年の収益を着実に稼ぎ、それを株主の皆様へ還元し、同時に将来性のあるバイオ事業を育成する。宝ホールディングスは、株主の皆様にとって、堅実さと夢の両方を期待していただける事業ポートフォリオを構築していると自負しています。引き続き、株主の皆様のご支援とご理解をお願い申し上げます。

2006年7月

代表取締役社長

大宮 久

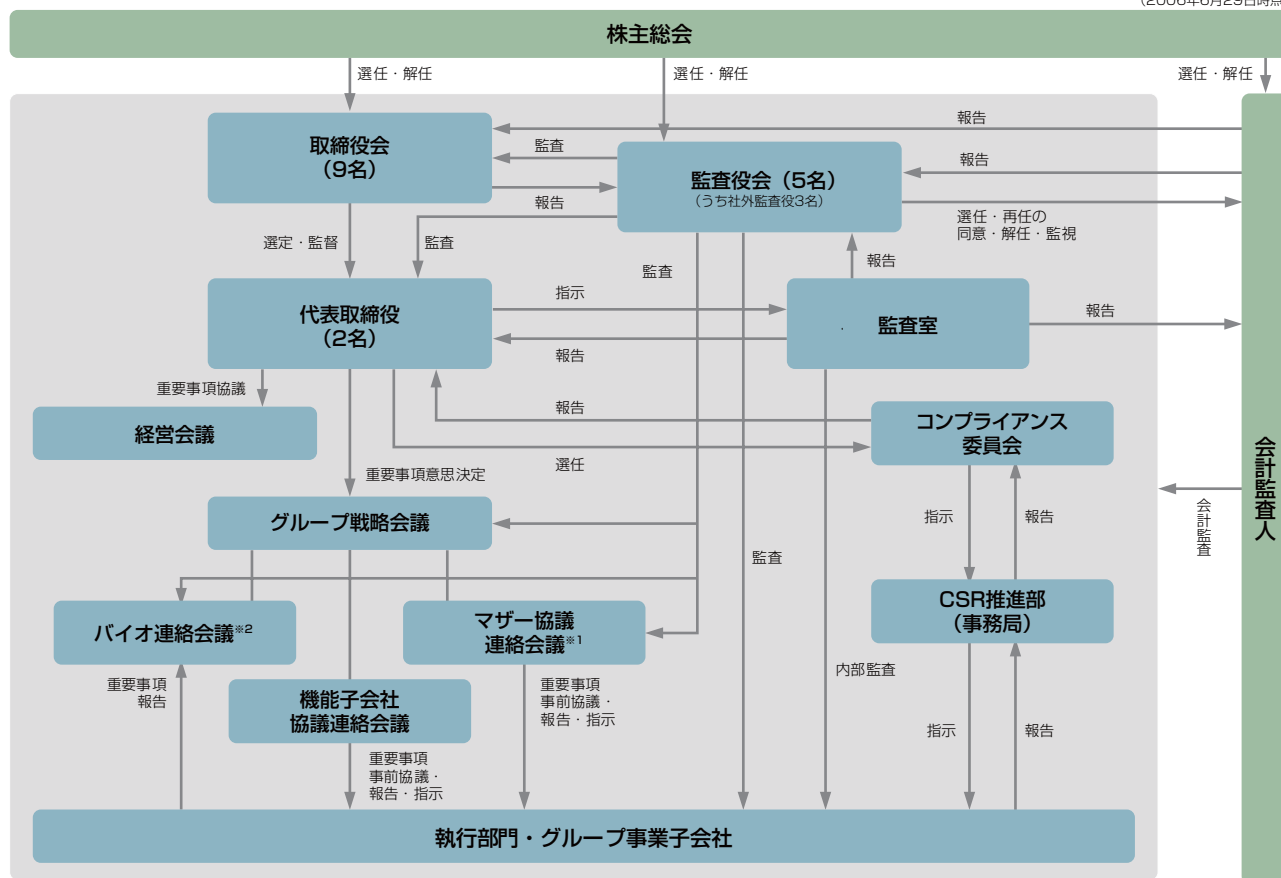
# コーポレート・ガバナンス

当社グループは、企業としての社会的責任を果たし、当社グループを取り巻く様々なステークホルダーから信頼されることによって、持続的な企業価値の向上が可能になると考えています。このような認識のもと、当社グループでは、コーポレート・ガバナンスの充実を重要な経営課題ととらえ、その充実に努めています。

## コーポレート・ガバナンス体制

2006年6月29日現在、当社の取締役会は9名で構成されており、社外取締役は選任しておらず、監査役制度を採用しております。監査役5名、うち3名は社外監査役です。当社の監査役は、取締役会等の重要会議への出席や重要書類の調査を通じて、取締役の意思決定状況や職務執行の適法性を監査しています。

(2006年6月29日時点)



\*1 マザー（酒類・食品事業）協議連絡会議 ※2 バイオ（バイオ事業）連絡会議

## コーポレート・ガバナンスに重要な影響を与えうる特別な事情

### 当社の上場子会社タカラバイオ株式会社について

2006年3月31日現在、当社は、タカラバイオ株式会社の議決権の71.69%を所有する親会社です。当社と同社の関係は以下の通りです。

#### ①当社グループにおけるタカラバイオ株式会社の位置づけ

タカラバイオ株式会社は、2002年4月1日に、物的分割の方法により当社の100%子会社として設立いたしました。その後、当社の議決権所有比率は、同社による第三者割当増資、公募増資、新株予約権付社債の発行等により、現在の議決権所有比率となっております。

当社グループは、純粋持株会社である当社および当社の関係会社40社（子会社30社、関係会社10社）で構成され、そのなかでタカラバイオ株式会社はバイオテクノロジー専門の事業子会社として位置づけ、当社グループとしてバイオ

事業を推進しております。

## ②当社のグループ会社管理について

当社は、連結経営管理の観点から「グループ会社管理規程」を定め運用しておりますが、その目的はグループ各社の独自性・自立性を維持しつつ、グループ全体の企業価値の最大化を図ることにあります。タカラバイオ株式会社についても同規程を適用しており、同社の取締役会において決議された事項等の報告を受けておりますが、取締役会決議事項の事前承認等は求めておらず、当社が独自に事業運営を行っております。

また当社は、「グループ戦略会議」、「バイオ連絡会議」等の会議体を設けており、タカラバイオ株式会社の代表取締役、役員、執行役員等の出席を求めています。これらの会議体は、グループ全体の方針についての討議や、グループ会社間の報告を目的としたものであり、同社の自主性・独立性を妨げるものではありません。

## 当社株券等の大規模な買付行為に対する対応方針について

当社は、企業価値、ひいては、株主の皆様の共同の利益を確保し、または向上させることを目的とし、当社取締役会の事前の賛同を得ずに行われる当社株券等の大規模な買付行為が行われた場合に、株主の皆様が対応方法を検討するために十分な時間と情報を確保することができるよう、合理的なルールを設定しております。内容につきましては、当社ホームページ (<http://www.takara.co.jp/ir/index.htm>) ならびに有価証券報告書、当アニュアルレポートのMDAにおいて掲載しておりますのでご参照願います。

## 環境活動

皆様に「いきいき」をお届けする企業であり続けるために  
社会や地球にやさしい「緑字企業」へ

### お客様の「いきいき」のために

宝酒造では、ISO9001品質マネジメントシステムの認証を全工場取得しており、品質の確認できた原材料のみを使用する等、確かな品質管理体制のもと、安全で安心できる商品をお客様にお届けしています。

また、中身のみを販売するはかり売りの実施や、分別作業が簡単なエコペットの開発、容器を再利用できるリターナブルびんの採用等、環境に配慮した商品開発を進めるとともに、お客様と協力して容器リサイクルの推進に取り組んでいます。

さらに、不適切な飲酒によるお客様の健康障害を防止するため、適正飲酒の啓発活動を実施しています。



はかり売り

### 社会の「いきいき」のために

宝ホールディングスは、1985年、日本の森林や水辺の自然環境やそこに生息する生物を保護する活動に助成する公益信託「TaKaRaハーモニストファンド」を設立しました。2005年度までに助成した件数は、延べ219件、助成累計金額は1億525万円になります。

また2004年4月、宝酒造において、米づくりや酒づくりを通して、自然の尊さや社会ルールを親子で学ぶ「TaKaRaお米とお酒の学校」を開校しました。その他にも、各種社会貢献活動への協賛や、地域の清掃活動等のボランティア活動等、幅広い活動を行っています。



TaKaRaハーモニストファンド

### 地球の「いきいき」のために

宝酒造では、事業活動は根本的に地球環境に負荷を与える行為であるということを受け止め、1998年以来、環境負荷の削減と、環境配慮や社会貢献活動の改善度を、収支決算の形で総合的に表した「緑字決算」という指標を、広く社会に公表し続けています。



緑字決算をはじめ、宝酒造のCSRの取り組みを表した「緑字企業報告書2005」

# 宝酒造グループ

当社グループのコア事業である酒類・食品事業の歴史は、1842（天保13）年までさかのぼります。以来160有余年にわたり、時代や消費者が求める価値観や嗜好に対して、常に独創的で確かな技術に裏づけられた安心できる商品を提供することを使命に、活動を続けています。

その商品カテゴリーは、焼酎、清酒、ソフトアルコール飲料、ワイン、ウイスキー、中国酒、調味料、飲料、原料用アルコール等幅広く展開しており、また日本国内のみならず、アメリカ、中国、英国スコットランド等の子会社を通じて、グローバルな事業展開も行っています。



焼酎

## 焼酎：常に新たな市場創造を目指して

永年、焼酎スペシャリスト企業として培ってきた独自の優れた技術によって、時代が求める焼酎を追及し、市場を創造し続けることで、焼酎市場の更なる発展に貢献してきました。甲類焼酎では、2007年に発売30周年を迎えるロングセラー“宝焼酎「純」”、スタイリッシュなデザインとまろやかな味わいが特徴の“焼酎「JAPAN」”等ボトル焼酎の新たなカテゴリーを築いてきました。本格焼酎においては、独自製法による“全量芋焼酎「一刻者<sup>いっこもん</sup>」”、明治・大正時代の歴史を受け継ぐ“白壁蔵 粕取焼酎「日の本」”等、造りにこだわった焼酎を発売し、伸長する本格焼酎市場においても確固たる地位を築いています。



清酒 松竹梅

## 清酒：「こだわり」とさらなる高品質を求めて

「松竹梅」は、時代の潮流に合致したマーケティング戦略により、慶祝・贈答市場におけるトップブランドとして磐石な地位を確立。「よろこびの清酒」として高品質なイメージを守り続け、成長を遂げてきました。また、ソフトパック市場においても“松竹梅「天」”を発売。差別化した酒質と榊莫山氏作の書画を採用したデザインも好評で、多くのお客様に支持されています。高品質清酒のみを製造する「白壁蔵」では、「本当に旨くてよい酒とは何か」を徹底的に追及しています。



ソフトアルコール飲料  
タカラcanチューハイ

## ソフトアルコール飲料：焼酎にこだわった チューハイをご提案

1984年、衝撃的なデビューを飾った“タカラcanチューハイ”。厳選された「焼酎」「果汁」「水」と確かな技術に裏づけられた、こだわりの品質は、お客様からの絶大な支持により発売から20年を超えるロングセラー商品となりました。2006年3月には、“TAKARA「焼酎ハイボール」”を発売。昭和20年代の東京下町で生まれた、チューハイの原点とされる「焼酎ハイボール」の味わいを追求した缶入りチューハイです。食事とともに楽しめるドライな味わいで、お客様の飲用シーンを広げます。宝酒造ならではの「焼酎にこだわった」商品、お客様のニーズにこたえる高品質商品を開発しています。



調味料  
タカラ本みりん「純米」  
タカラ本料理清酒

## 調味料：お酒のチカラでもっとおいしく

古くから世界各地で使われてきた「調味料」としてのお酒のチカラに着目し、料理をおいしく、食卓を豊かにする様々な商品をご提案しています。江戸時代に誕生した“タカラ本みりん”は日本料理に欠かせない調味料としてお客様にご支持いただき、本みりんのトップブランドとして日本の食文化とともに進化・発展を続けています。また“タカラ本料理清酒”は、素材の生臭さを消し、料理に深いコクを与える「料理のための清酒」としてご愛用いただいています。近年では拡大を続ける中食市場へも積極的に参入、持ち帰り弁当や惣菜向けの調味料を積極的に販売しています。



Takara Sake USA Inc.の  
テイस्टィングルーム

## 海外事業：ネットワークを活かして海外市場へ

世界各国にある海外子会社が構築した販売ネットワークを活かして、酒類や調味料の輸出入、現地生産を行っています。米国には清酒「松竹梅」やみりん、梅酒を製造・販売するTakara Sake USA Inc.と、スーパープレミアムバーボン“ブランドン”を扱うAge International, Inc.があり、中国には清酒「松竹梅」やみりん、焼酎を製造・販売する宝酒造食品有限公司、日本やその他グループ製品の輸入販売を行う上海宝酒造貿易有限公司があります。また欧州では英国にてスコッチウイスキーの製造・販売を行うThe Tomatin Distillery Co., Ltd.があります。これらのネットワークを相互に活用・補完することで、より効果的な活動を目指すとともに、新たな事業も展開していきます。

# タカラバイオグループ

TaKaRaグループのバイオ事業の使命は、バイオテクノロジーを通して人々の暮らしに貢献することにあります。遺伝子工学技術とバイオ医療との融合こそが、「遺伝子医療」という革命的な医療を完成させるための最短コースであり、またバイオテクノロジーと食品工学の融合が、新しい「バイオ医食品」を産み出すものと信じております。そのためにも、日進月歩で進むバイオテクノロジーただ一点に、全資源を集中していきます。

バイオ事業のコアビジネスである遺伝子工学研究分野、第2の収益事業化を目指す医食品バイオ分野、および将来巨大ビジネスとなりうる遺伝子医療分野の3つのバイオ分野に注力していくことによって、バイオのグローバルマーケットにおいて確固たる地位を築いていきたいと考えております。



研究用試薬

## 遺伝子工学研究分野

バイオテクノロジー分野の研究開発に必須な研究用試薬や理化学機器の販売、研究受託サービス等を手掛けています。

研究用試薬・理化学機器においては、遺伝子増幅関連試薬・機器等の遺伝子工学分野を中心とした自社製品の開発や、2005年9月に買収した米国クロンテック社を中心とした分子生物学分野の製品開発のみならず、欧米メーカー製品の導入販売等により、バイオテクノロジー全般にその対象領域を広げ、売上拡大を目指しています。

また、大規模シーケンシング能力を活かしたゲノムの配列解析や、DNAチップ、DNAマイクロビーズアレイ技術等を用いた遺伝子の機能解析等の研究受託サービスを行っています。

タカラバイオはクロンテック社との研究開発力の相乗効果や効率化を図り、クロンテック製品の宝生物工程（大連）有限公司への製造移管によるコストダウンを進めることにより、遺伝子工学研究分野における更なる収益拡大を目指します。



クロンテック社製 蛍光タンパク質



明日葉栽培風景



ホンシメジ



レトロネクチン®

## 医食品バイオフィン

「医食同源」のコンセプトのもと日本古来の食材をバイオテクノロジーの目で見つめなおし、その機能を解明し、機能性食品として消費者の皆様にお届けしています。これまでに、昆布「フコイダン」、寒天「オリゴ糖」、明日葉「カルコン」、キノコ「ポリテルペン」等の生理活性成分を発見し、製品開発を行っております。

またキノコの大規模栽培においては、1970年にブナシメジの大規模栽培に世界に先駆けて成功し、さらにハタケシメジとホンシメジの大規模栽培法を確立し、事業化を推進しています。さらに、タカラバイオはマツタケゲノムの解析に成功し、現在、マツタケゲノムを活用した高付加価値キノコの大規模栽培法の確立を目指しています。

## 遺伝子医療分野

遺伝子工学で培われたテクノロジーの応用分野として、遺伝子医療（遺伝子治療、細胞医療）に必須な先端技術を開発し、その事業化を目指しています。

遺伝子医療分野におけるタカラバイオの中核技術は、米国インディアナ大学と共同開発したレトロネクチン法であり、タカラバイオは全世界における独占の実施権を保有しています。レトロネクチン法は、体外遺伝子治療の際に使われるもので、これまで難しいとされてきた造血幹細胞等の血球系細胞への高効率遺伝子導入を可能としました。レトロネクチン法は、様々な公的な医療機関での遺伝子治療臨床研究で採用されており、海外の民間企業が行っている遺伝子治療臨床試験にも利用されています。さらに、タカラバイオは自社のプロジェクトとして、日本において白血病や食道がんを対象とした遺伝子治療の臨床開発を推進しています。

また細胞医療分野においては、宝日医生物技術（北京）有限公司が中国において、腎がんを対象としたがん免疫療法に関する臨床開発を推進しています。

# 6年間の主要連結財務データ

3月31日終了事業年度

	単位：百万円						単位：千米ドル
	2006	2005	2004	2003	2002	2001	2006
<b>期間項目：</b>							
外部顧客に対する売上高	<b>196,119</b>	195,359	196,897	187,394	183,638	184,886	<b>1,676,230</b>
酒類・食品セグメント	<b>176,107</b>	178,068	179,675	167,188	164,792	-	<b>1,505,188</b>
酒類・調味料セグメント	-	-	-	-	-	155,661	-
清涼飲料セグメント	-	-	-	-	-	11,472	-
バイオセグメント	<b>16,490</b>	13,671	13,560	14,338	14,312	-	<b>140,940</b>
バイオセグメント	-	-	-	-	-	11,469	-
その他セグメント	<b>3,520</b>	3,618	3,661	5,867	4,533	-	<b>30,085</b>
印刷セグメント	-	-	-	-	-	-	-
その他セグメント	-	-	-	-	-	6,283	-
売上原価	<b>120,132</b>	119,114	119,023	114,617	112,482	111,381	<b>1,026,769</b>
売上総利益	<b>75,986</b>	76,244	77,874	72,776	71,155	73,504	<b>649,452</b>
販売費及び一般管理費	<b>70,062</b>	68,841	68,514	64,169	62,460	61,918	<b>598,820</b>
営業利益	<b>5,924</b>	7,402	9,360	8,606	8,695	11,585	<b>50,632</b>
税金等調整前当期純利益	<b>7,876</b>	6,813	10,453	6,232	7,173	9,852	<b>67,316</b>
当期純利益	<b>5,320</b>	2,614	5,668	2,185	3,481	5,092	<b>45,470</b>
有形固定資産の減価償却費 及びその他の償却費	<b>6,755</b>	6,393	6,427	6,627	6,443	5,628	<b>57,735</b>
資本的支出	<b>5,633</b>	6,511	5,243	7,269	10,065	13,337	<b>48,145</b>
研究開発費	<b>3,574</b>	3,353	3,127	3,591	3,699	3,093	<b>30,547</b>
<b>期末項目：</b>							
総資産	<b>212,466</b>	190,773	189,416	175,830	179,702	191,844	<b>1,815,948</b>
有利子負債残高	<b>39,330</b>	40,347	41,560	38,854	28,331	31,865	<b>336,153</b>
株主持分（純資産）	<b>101,839</b>	89,478	88,006	79,888	83,714	84,742	<b>870,418</b>
<b>1株当たり（単位：円）：</b>							
当期純利益	<b>24.39</b>	11.74	25.93	9.76	16.05	23.47	<b>0.20</b>
配当金	<b>9.00</b>	7.50	7.50	7.50	7.50	7.50	<b>0.07</b>
<b>指標（単位：%）：</b>							
総資産当期純利益率	<b>2.6</b>	1.4	3.1	1.2	1.9	3.0	
株主資本当期純利益率	<b>5.6</b>	2.9	6.8	2.7	4.1	6.4	
株主資本比率	<b>47.9</b>	46.9	46.5	45.4	46.6	44.2	

注 1. 百万円未満は切り捨てにより算出しております。

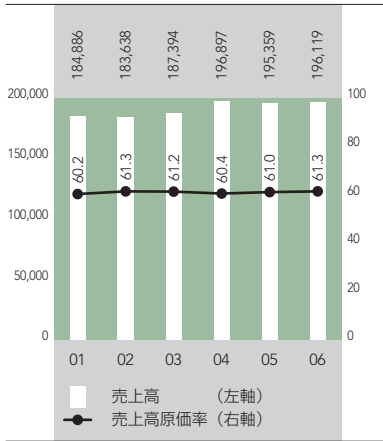
2. 米ドルは2006年3月31日現在のレートに近い117円/ドルで便宜換算しております。

3. 事業区分の変更

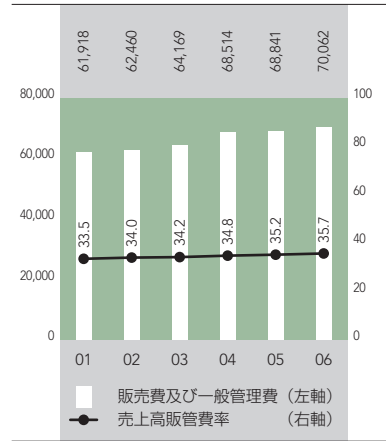
2002年4月1日の会社分割に伴い、2003年3月期より、より会社分割後の経営実態の変化を反映した適切なセグメント情報を開示すべく、2002年3月期まで区分掲記しておりました「酒類・調味料」および「清涼飲料」セグメントを「酒類・食品」セグメントに統合し、また「その他」セグメントに含めておりました、酒類・食品事業における物流や資材調達等の事業も同じく「酒類・食品」セグメントに含めることといたしました。なお、2002年3月期については、一定の前提等をおいて、この新たなセグメント区分により算出したセグメント情報を掲載しております。

# ファクトシート

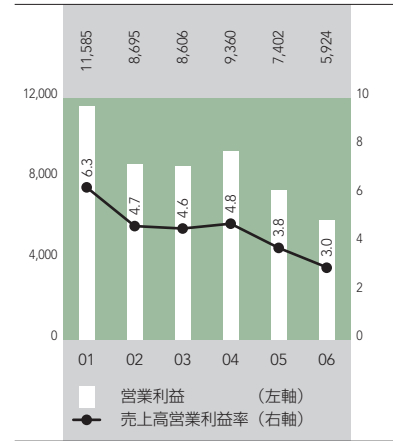
売上高・売上高原価率  
(百万円・%)



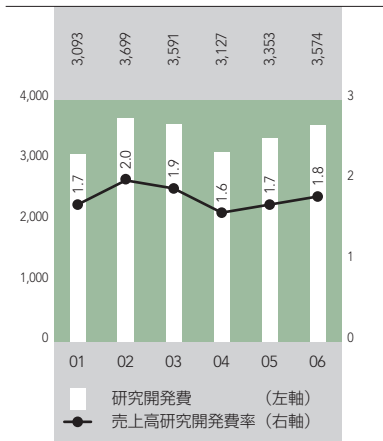
販売費及び一般管理費・売上高販管費率  
(百万円・%)



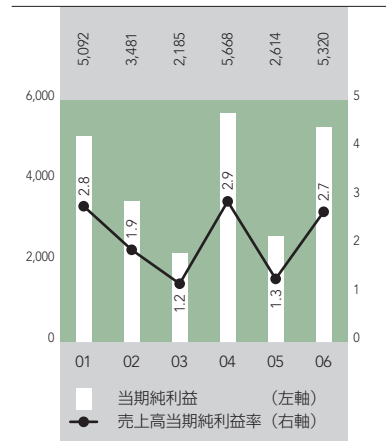
営業利益・売上高営業利益率  
(百万円・%)



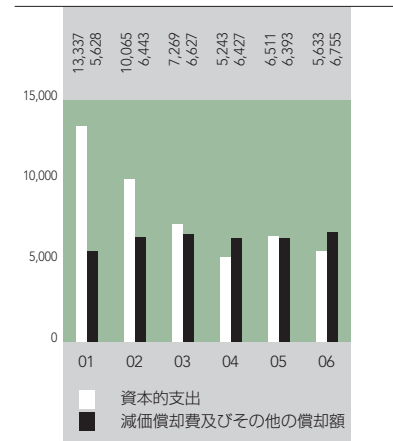
研究開発費・売上高研究開発費率  
(百万円・%)



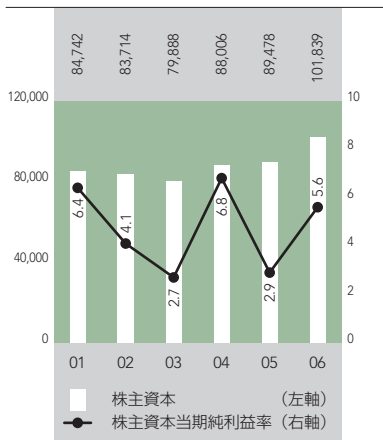
当期純利益・売上高当期純利益率  
(百万円・%)



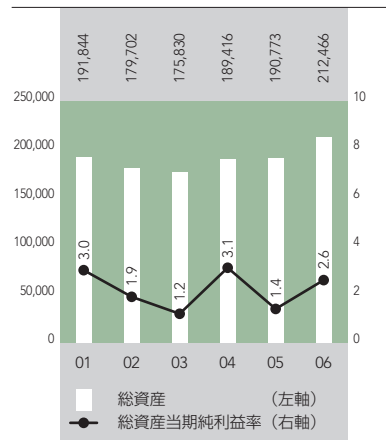
資本的支出・減価償却費及びその他の償却額  
(百万円)



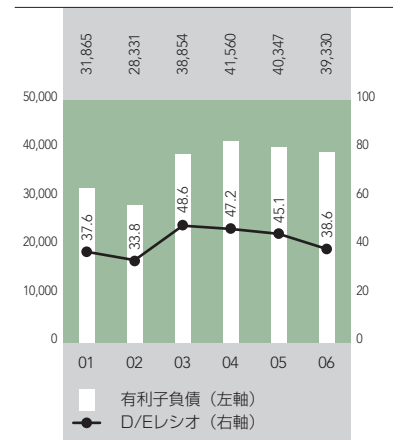
株主資本・株主資本当期純利益率  
(百万円・%)



総資産・総資産当期純利益率  
(百万円・%)



有利子負債・D/Eレシオ  
(百万円・%)



特集

株主、投資家の皆様へ

コーポレート・ガバナンス  
取組活動

事業概要  
宝酒造グループ

事業概要  
タカラハイオグループ

6年間の主要連結財務データ  
ファクトシート

主要子会社データ  
役員  
会社概要

宝ホールディングスの歴史  
21

# 主要子会社データ

会社名	所在地	資本金	議決権の 所有割合	主な事業内容
<b>宝酒造株式会社</b>	〒600-8688 京都府京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20 TEL 075-241-5110 【お客様相談室】 TEL 075-241-5111	1,000百万円	100.0%	酒類、酒精、調味料、その他食品及び食品添加物の製造・販売
<b>宝酒造株式会社の連結子会社</b>				
タカラ物流システム株式会社	〒611-0041 京都府宇治市横島町目川173 TEL 0774-20-0761	50百万円	(100.0%)	運送業
ティービー株式会社	〒611-0041 京都府宇治市横島町目川173 TEL 0774-20-0762	10百万円	(100.0%)	運送業
株式会社 ラック・コーポレーション	〒107-0052 東京都港区赤坂5-2-39 TEL 03-3586-7501	80百万円	(100.0%)	酒類の輸入及び販売
タカラ物産株式会社	〒612-8031 京都府京都市伏見区桃山町松平筑前10-1 TEL 075-601-6267	10百万円	(100.0%)	食品及び飼料販売
タカラ容器株式会社	〒612-8338 京都市伏見区舞台町9番地 TEL 075-605-4540	30百万円	(100.0%)	容器卸売業
株式会社 トータルマネジメントビジネス	〒612-8061 京都市伏見区竹中町609番地 TEL 075-623-2660	20百万円	(100.0%)	広告代理業、マーケティング調査 企画業務、人材派遣業、飲食店経営
USA Takara Holding Company (米国)	708 Addison St., Berkeley, CA 94710, U.S.A. TEL 510-540-8250	4,094千米ドル	(100.0%)	持株会社
Takara Sake USA Inc. (米国)	708 Addison St., Berkeley, CA 94710, U.S.A. TEL 510-540-8250	3,000千米ドル	(90.0%)	酒類の製造及び販売
AADC Holding Company, Inc. (米国)	229 W.Main St. Frankfort, KY 40602, U.S.A. TEL 502-223-9874	30ドル	(100.0%)	持株会社
Age International, Inc. (米国)	229 W.Main St. Frankfort, KY 40602, U.S.A. TEL 502-223-9874	250千米ドル	(100.0%)	バーボンウイスキーの製造・販売
The Tomatin Distillery Co., Ltd. (英国)	Tomatin, Inverness-shire, IV13 7YT Scotland, U.K. TEL 1808-511-234	3,297千ポンド	(80.6%)	スコッチウイスキーの製造・販売
J&W Hardie Ltd. (英国)	Tomatin, Inverness-shire, IV13 7YT Scotland, U.K. TEL 1808-511-234	250千ポンド	(100.0%)	スコッチウイスキーの製造・販売
宝酒造食品有限公司 (中国)	No.31 Nanyuan West St. Fengtai District, Beijing, People's Republic of China TEL 010-6791-1758	130,000千元	(62.0%)	酒類、酒精、調味料の製造・販売
上海宝酒造貿易有限公司 (中国)	No 889 Ren Ming Road Wai Wai China Tower room# 810-811, Shanghai, People's Republic of China TEL 21-6374-6652	200千米ドル	(100.0%)	酒類・食品の輸入販売及び輸出
Singapore Takara Pte. Ltd. (シンガポール)	16, Raffles Quay, #15-09 Hong Leong Building, Singapore TEL 421-9258	1,000千米ドル	(100.0%)	酒類の販売及び投資活動
<b>タカラバイオ株式会社</b>	〒520-2193 滋賀県大津市瀬田3-4-1 TEL 077-543-7200	8,739百万円	71.7%	医薬品、試薬、理化学機器、医療 用具の製造・販売、遺伝子解析、 遺伝子検査の受託等
<b>タカラバイオ株式会社の連結子会社</b>				
瑞穂農林株式会社	〒622-0313 京都府船井郡京丹波町保井谷三ツ枝38 TEL 0771-86-1500	10百万円	(49.0%)	きのご類の生産、販売
有限会社タカラバイオ ファームセンター	〒895-1817 鹿児島県曾於郡大崎町永吉4217 TEL 0994-71-7240	3百万円	(48.3%)	農産物・林産物の生産、加工並びに販売
宝生物工程 (大連) 有限公司 (中国)	Dong Bei 2Jie 19Hao, Development Zone, Dalian, People's Republic of China TEL 411-8761-9944	2,000百万円	(100.0%)	研究試薬の製造・販売
Takara Bio Europe S.A.S. (仏国)	2, avenue du president Kennedy, 78100 St. Germain en Laye, France TEL 1-39-04-68-80	600千ユーロ	(100.0%)	研究試薬の販売
Takara Korea Biomedical Inc. (韓国)	Dong-ju Bldg., 451-3, Togok2-Dong, Kangnam-ku, Seoul, Korea TEL 02-577-2002	3,860百万ウォン	(86.8%)	研究試薬の開発・製造・販売
Takara Mirus Bio Inc. (米国)	510 Charmany Drive Madison, WI 53719, U.S.A. TEL 608-441-2844	200千米ドル	(50.0%)	研究試薬の販売、遺伝子治療及び その関連技術の研究開発
宝日生物技術 (北京) 有限公司 (中国)	A107-1 Science & Manufacture Incubator Building, Zhong Guan Cun Life Science Park, Chang Ping District, Beijing, People's Republic of China (102206) TEL 010-8267-9157	700百万円	(100.0%)	バイオ医薬の研究開発、研究試薬・ 理化学機器の製造・販売、研究受託 サービス
Takara Bio USA Holding Inc. (米国)	1290 Terra Bella Avenue, Mountain View, CA 94043, U.S.A.	70,000千米ドル	(100.0%)	持株会社
Clontech Laboratories, Inc. (米国)	1290 Terra Bella Avenue, Mountain View, CA 94043, U.S.A.	83千米ドル	(100.0%)	研究用試薬の開発・製造・販売、 研究受託サービス等
<b>宝ホールディングス株式会社の連結子会社</b>				
大平印刷株式会社	〒600-8881 京都市下京区西七条掛越町55 TEL 075-313-7141	90百万円	99.0% (1.0%)	印刷業
宝ネットワークシステム株式会社	〒600-8688 京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20 TEL 075-241-5139	30百万円	100.0%	コンピューターシステムの開発・運用・ 保守
川東商事株式会社	〒612-8338 京都府京都市伏見区舞台町9 TEL 075-601-5211	30百万円	100.0%	酒類販売

(注) 議決権の所有割合の括弧書きは間接所有割合。



宝ホールディングス株式会社 代表取締役社長  
兼 宝酒造株式会社 代表取締役社長  
兼 タカラバイオ株式会社 取締役会長

大宮 久



宝ホールディングス株式会社 代表取締役副社長  
経営企画・経理・IR統括担当、財務担当  
兼 宝酒造株式会社 代表取締役副社長

大宮 正



タカラバイオ株式会社 代表取締役社長  
兼 宝ホールディングス株式会社 取締役

加藤 郁之進

宝ホールディングス株式会社

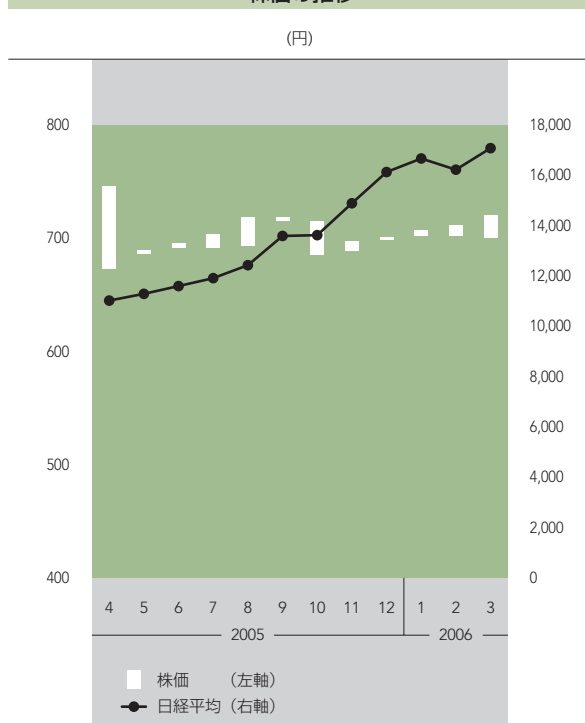
常務取締役	原 周三	(総務人事・環境広報・CSR担当)
取締役	細見 吉郎	(相談役)
取締役	後藤 功	(兼 宝酒造株式会社 代表取締役副社長)
取締役	高橋 忍	(兼 宝酒造株式会社 代表取締役副社長)
取締役	矢野 雅晴	(経営企画担当・財務部長 兼 宝酒造株式会社 取締役)
取締役	松崎修一郎	(経理担当・IR担当・経理部長・IR室長)
常勤監査役	西川 一	
常勤監査役	関山 秀人	
監査役	市田 之彦	
監査役	太田 芳枝	
監査役	中條 毅	

# 会社概要

## 宝ホールディングス株式会社 (2006年3月31日現在)

商号 宝ホールディングス株式会社  
 事業内容 持株会社  
 本店所在地 京都市下京区四條通烏丸東入長刀鉾町20番地  
 電話 075-241-5130  
 設立 1925年9月6日  
 資本金 13,226百万円  
 ホームページアドレス <http://www.takara.co.jp>

### 株価の推移



## 株主メモ (2006年3月31日現在)

発行株式  
 授權株式数 870,000,000株  
 発行済株式総数 217,699,743株  
 株主数 45,243名  
 上場取引所 東証1部、大証1部  
 証券コード 2531  
 証券代行業 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 みずほ信託銀行株式会社  
 証券代行業務連絡先 〒135-8722  
 東京都江東区佐賀一丁目17番7号  
 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)  
 株主総会 定時株主総会は、毎年6月に京都で開催されます。その他、必要のある場合には少なくとも2週間の事前通告をもって、臨時株主総会が開かれる場合があります。

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社みずほコーポレート銀行	9,738	4.47
農林中央金庫	9,500	4.36
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	8,956	4.11
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	6,715	3.08
明治安田生命保険相互会社	6,318	2.90
株式会社京都銀行	5,000	2.30
住友信託銀行株式会社	2,753	1.26
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (日新火災海上保険退給信託口)	2,183	1.00
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井アセット信託銀行再信託分・三井物産株式会社退職給付信託口)	2,170	1.00
宝グループ社員持株会	2,062	0.95

(注) 1. 持株数の千株未満は切り捨てております。  
 2. 「住友信託銀行株式会社」の持株数には、信託業務に係る株式数は含んでおりません。

## 宝酒造株式会社 (2006年3月31日現在)

商号 宝酒造株式会社  
 本社所在地 京都市下京区四條通烏丸東入長刀鉾町20番地  
 電話 075-241-5110  
 設立 2002年4月1日  
 資本金 1,000百万円  
 発行済株式数 20,000株  
 大株主及び持株比率 宝ホールディングス株式会社 100%  
 代表者 代表取締役社長 大宮 久  
 ホームページアドレス <http://www.takarashuzo.co.jp>

## タカラバイオ株式会社 (2006年3月31日現在)

商号 タカラバイオ株式会社  
 本社所在地 大津市瀬田三丁目4番1号  
 電話 077-543-7200  
 設立 2002年4月1日  
 資本金 8,739百万円  
 発行済株式数 279,007.87株  
 大株主及び持株比率 宝ホールディングス株式会社 71.68%  
 代表者 代表取締役社長 加藤 郁之進  
 ホームページアドレス <http://www.takara-bio.co.jp>

## 宝ホールディングスの歴史



# 宝ホールディングスの歴史

	酒類・食品事業	バイオ事業
1925年	(大正14年) 宝酒造株式会社創立	
1949年	株式を上場	
1957年	ビール事業進出 (「タカラビール」発売)	
1967年	ビール事業撤退	
1970年	醗酵調味液「味しるべ」発売	大津市に中央研究所完成 ブナシメジの人工栽培に成功
1977年	宝焼酎「純」を発売	
1979年	“カムバック・サーモン・キャンペーン” 開始	国産初の遺伝子工学研究用試薬「制限酵素」を発売
1983年	米国宝酒造株式会社を設立	
1984年	タカラcanチューハイ 発売	
1986年	「TaKaRa バービカン」発売	
1988年	宝焼酎「純」レジェンド発売	PCR法による遺伝子増幅装置の国内独占販売権獲得
1993年	「すりおろしりんご」発売 特定保健用食品として「カルシウムパーラー」認可	宝生物工程（大連）有限公司設立（中国大連市） 全世界にわたる広範囲のPCR関連特許ライセンスを取得
1994年	タカラcanチューハイ「デラックス」〈すりおろしりんご〉 〈あらしぼりオレンジ〉発売	
1995年	合併会社、北京寛宝食品有限公司（現・宝酒造食品有限公司） 設立 TaKaRa CI基本デザインを変更	レトロネクチン法を開発 TaKaRa Korea Biomedical Inc. を設立（韓国ソウル市）
1997年3月期		96年 4月 タカラアグリ株式会社を設立（03年8月タカラ バイオ(株)に吸収合併）
1998年3月期		97年 5月 遺伝子治療研究用試薬「レトロネクチン®」を全 世界で発売開始 97年12月 レトロネクチン法を用いた遺伝子治療の臨床試験 研究を開始
1999年3月期	98年 9月 緑字決算報告書（現・緑字企業報告書）を発行 98年10月 ワイン事業に本格参入。カリフォルニアワインを 輸入・販売	98年 8月 DNAチップ作製装置と解析装置の販売を開始 98年11月 高速PCR用酵素Zetaqを用いた高効率DNA型 鑑定法の開発
2000年3月期	00年 3月 <伝承健寿>梅肉エキス入り濃縮飲料 発売 00年 3月 OCIA認証「特撰タカラ有機本みりん」発売	99年 9月 DNAチップの販売を開始 00年 2月 韓国バイオベンチャー企業ViroMed社を実質的に 子会社化
2001年3月期	<b>00年04月 長期経営構想 TAKARA EVOLUTION-100(TE-100) スタート</b>	
	01年 3月 株式会社ラック・コーポレーションの株式を取得 01年 3月 焼酎「ZIPANG」発売	00年 7月 高速ゲノム解析センター、ドラゴン・ジェノミクス 株式会社を設立（02年10月タカラバイオ(株)に吸収 合併） 00年 9月 等温遺伝子増幅法「ICAN法」を開発 00年11月 米国LynxTherapeutics社とDNAマイクロブーズアレイ 技術で提携
2002年3月期	01年 9月 全量芋焼酎「一刻者」、黒麹かめ仕込 本格芋焼酎 「黒甕」、本格米焼酎 洞窟かめ貯蔵「蔵窟王」発売 01年 9月 東日本ロジスティクスセンター本格稼働 01年10月 清酒・特定名称酒の拠点として灘工場「白壁蔵」 完成 02年 3月 宝焼酎「純」25周年記念ボトル 発売	01年 9月 Takara Korea Biomedical社が第三者割当増資を実施 01年10月 共生細菌シンビオバクテリウム トエビの全ゲノム の解析を終了 01年11月 ICAN法によるベッドサイド検査試薬（研究用）を 開発 01年12月 組換えブレインテグレーション複合法（rPIC法） を開発 02年 3月 コールドショック ベクター法を用いたタンパク質 発現システムを開発

酒類・食品事業	バイオ事業
---------	-------

2003年3月期

**02年04月 持株会社体制へ 持株会社 宝ホールディングス株式会社 設立**

02年 4月	分社・持株会社化により宝酒造株式会社(現)設立	02年 4月	分社・持株会社化によりタカラバイオ株式会社設立
02年12月	琉球泡盛「於茂登 炎(おもと ほむら)」新発売	02年11月	ICAN法を用いたカルバペネム耐性菌検出キットを発売
02年12月	壱岐麦焼酎「音波(おとは)」新発売	03年 2月	モルメド社と、がん自殺遺伝子治療、がんワクチン遺伝子治療：2種の遺伝子治療技術のアジア独占実施権について合意

2004年3月期

03年 8月	タカラ本みりん「純米」発売	03年 5月	米国Mirus社と合併会社Takara Mirus Bio Inc. (米国ウィスコンシン州)を設立
03年 9月	松竹梅「天」新発売	03年 5月	等温遺伝子増幅法ICAN法日本出願特許が成立
04年 3月	パービカン<リアルティスト> 発売	03年 5月	米国VIRxSYS社に遺伝子治療用レトロネクチン®のライセンスを供与
04年 3月	「ファイバーバーラー」が特定保健用食品の表示許可を取得	03年 6月	ミズマチ・タカラバイオ株式会社(東京都渋谷区)を設立
		03年10月	タカラバイオ株式会社が第三者割当増資を実施
		04年 1月	北京市に遺伝子治療や遺伝子工学の研究開発を目的とした新会社宝日生物技術(北京)有限公司(Takara Biomedical Technology (Beijing) Co., Ltd.)を設立

2005年3月期

**04年12月 タカラバイオ株式会社 東証マザーズ上場**

04年 8月	タカラ有機本料理清酒 発売	04年 7月	米国国立がん研究所が実施する悪性黒色腫を対象としたT細胞受容体・遺伝子治療の臨床試験にレトロネクチン®を供給
04年 9月	そば焼酎「十割」～そば全量～ 発売	04年 8月	中国科学院 がん病院と「がん免疫療法」共同臨床開発合意
04年 9月	しそ焼酎「若紫ノ君」発売	04年11月	飲む寒天<カロリーオフ>発売
05年 2月	松竹梅「生冷酒」<黒麹四段>辛口 発売	04年12月	マツタケのゲノム解析をホールゲノムショットガン方式で完了
05年 3月	タカラcanチューハイ「本格辛口」発売	04年12月	オイフェツ社にエイズの遺伝子治療用レトロネクチン®をライセンス供与
05年 3月	長期貯蔵焼酎「秘蔵の扉」発売	05年 1月	難治性白血病の原因のひとつであるFLT3遺伝子の変異に関する特許を日本、米国で取得
05年 3月	タカラcanチューハイ「WMIX」発売	05年 1月	米国ロサンゼルス小児病院がレトロネクチン®を用いたADA欠損症の遺伝子治療の臨床試験を開始
		05年 3月	三重大学医学部と共同で、肺がん、食道がんや頭頸部がん等の難治性のがんを対象としたT細胞受容体(TCR) 遺伝子治療の臨床開発を推進するために、三重大学医学部に寄附講座を設置

2006年3月期

**05年04月 TaKaRaグループ第6次中期経営計画 スタート**

05年 8月	本格米焼酎仕込“寶”京みりん 新発売	05年 4月	ヒト・エイズウイルス(HIV-1)由来のレンチウイルスベクターを用いた新しいエイズ遺伝子治療法の開発研究をモルメド社と共同で開始
05年 9月	松竹梅白壁蔵<山麩大吟醸>氷室蔵3年甕貯蔵、<山麩特別純米>氷室蔵3年甕貯蔵 新発売	05年 4月	フランス国立保健医学研究所のレンチウイルスベクターを用いた脳性副腎白質萎縮症の遺伝子治療臨床試験にレトロネクチン®を供給
05年 9月	黒壁蔵 本格麦焼酎「熟」新発売	05年 5月	国立がんセンターと白血病の遺伝子治療臨床試験を目指した共同研究契約を締結
05年 9月	宝チューハイ 壺詰 新発売	05年 9月	米国BD社からクローンテック事業を買収
05年 9月	タカラcanチューハイ「果実きわだつチューハイ」新発売	05年 9月	明日葉青汁ストレート<冷凍パック>を新発売
05年 9月	白壁蔵 粕取焼酎「日の本」新発売	05年10月	等温遺伝子増幅法(ICAN法)の特許が米国で成立
05年10月	「京寶」加工業務用本みりんN 新発売	05年12月	米国シティー・オブ・ホープ国立医療センターによるエイズの遺伝子治療臨床試験にレトロネクチン®を供給
06年 1月	明日葉豆乳飲料 新発売	05年12月	宝日生物技術(北京)有限公司が、腎がんを対象としたがん免疫療法の臨床試験を北京薬品監督局に申請
06年 3月	TAKARA「焼酎ハイボール」新発売	06年 2月	タカラバイオ、子会社の宝生物工程(大連)有限公司を100%子会社化
06年 3月	焼酎「JAPAN」新発売		
06年 3月	全量芋焼酎「紅一刻」、同「黒一刻」新発売		
06年 3月	本格焼酎「黒よかいち」<芋> 新発売		

\* 1997年3月期以降は、事業年度(4月1日～翌3月31日まで)での記載となっております。

# 宝ホールディングス株式会社

京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地

電話 (075) 241-5130

<http://www.takara.co.jp>



この印刷物は、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構により色覚の個人差を問わず、多くの方に見やすく配慮されたデザイン（カラーユニバーサルデザイン）として認定されました。



この報告書は「100%再生紙」を使用し、石油系溶剤を使用した樹脂タイプのインキと比べて環境負荷の低い「大豆油インキ」を使い、省資源で廃液の少ない「水なし印刷」を採用しています。